

西穂独標 (2,701m)

【日時】平成26年4月11、12日(金・土)

【メンバー】P&L 箕島

中込夫妻、田中(計4名)

【行動記録】

①上尾(5時57分)―
桶川北本IC―松本IC
―新穂高温泉P―西穂高
駅(12時28分)―西穂
山荘(14時15分)

②西穂山荘(6時30分)
―丸山(標高2,452m)

―独標(8時17分)―西穂山荘(9時54分)―西穂高駅(11時22分)
―新保高温泉P(12時30分)―平湯温泉(13時~14時50分)―上尾
(19時24分)



【装備・食料等】

【個人】ヘッドランプ、雨具、防寒衣、コンパス、地図、アイゼン(12本爪)、
ピッケル、サングラス、ストック、ワカン、ツェルト

【感想】

ロープウェイを2基乗り継ぎ、お昼を食べ出発。標高2,156mの西穂高口の
駅舎から一歩外に出ると、そこは白銀の世界であった。積雪は多いが、登山道はよ
く踏み固められており、しばらくはアイゼンなしで針葉樹林帯を進む。夏のコース
タイムと同じ1時間半で西穂山荘に到着した。手続きを済ませ部屋に入ると布団が
8組置かれていた。私達4人のほか、もう一組30代のカップルがいたがそれ以上
増えることはなかった。空があまりにも綺麗なので夕方丸山に登った。2日目は5
時の朝食後、身支度を整え独標に向かった。歩き始め風が少しあったが、独標の山
頂は無風で快適に過ごすことができた。南東に霞沢岳、南に乗鞍岳、北西に笠ヶ岳、
登山道の先には西穂高から奥穂高岳に連なる峰々、いずれも雪を抱いて青空に神々
しく輝いていた。山荘からの下りは週末のハイカーが次々と上がってきた。

天候に恵まれた2日間、最後は平湯温泉で汗を流した。